ジェフリ・チョーサー作 トゥローイラスとクリセイデ（その七）

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>著者</td>
<td>宮田 武志</td>
</tr>
<tr>
<td>雑誌名</td>
<td>大手前女子大学論集</td>
</tr>
<tr>
<td>巻</td>
<td>□</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td>8</td>
</tr>
<tr>
<td>発行年</td>
<td>1974年11月</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://id.nii.ac.jp/1160/00001075/">http://id.nii.ac.jp/1160/00001075/</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
巻の四はじまる。

前にも述べたとおり、強大なギリシャの大軍がトゥリオの町を取り囲んでいる間のことでした。そこで、バッケーズの獅子の胸に刻まれた何か、ヘクターと多数の勇士たちが、大きさにしてギリシャ勢と戦うべきかを多くの勇猛な軍に与え、評議をしていたのです。何時ものことながら、全力を尽くして戦う人々を、対馬さんがための評議です。この時間の日から、この戦闘は定目まで、どれくらい時日があったかは明らかではありませんが、ある日を除いて戦々々々々と、喜色は殆ど消え失せてしまいました。ギリシャの戦略図で、これは何れかに曲った大鳥を手にして出陣し、夜に向かう、敗走して町に帰ったのが実状です。ポリディマス、ネメシス、ザンシバッケーズ、ボリネスター、トゥリオの戦略図作などや、また、フィーパリテーズというような身分の低い人々のうちには包囲された間も、町中を歩くと、この街という街に知れました。ギリシャ軍の要求によって、プラタヤ王から休戦が申し出され、それこそ若千名のあった両軍の捕虜を発表し、流引き過剰分の捕虜に対して、莫大な身代金が支払われるべきことが議せられました。このことは各々の

【皆さんが、勿論周知のところである】

自分の発言に耳を傾けていたたい同志、戦相を変えて懇願し、次のように述べはじめました。このことは皆さんが、

【皆さんが、勿論周知のところである】

自分の発言に耳を傾けていたたい同志、戦相を変えて懇願し、次のように述べはじめました。このことは皆さんが、
ジェフリ・チョーサー作。トロイアスとクリセイア（下七）

道方策によってこの町を破壊し、所期の目的を達成すべきか、そのことに関しましては既に献策して、とくとく前席を煩わすところがあったの等、皆さん、このことは皆さんにおかれても了承のことと信じるのです。

なたに、皆さん、このご断交に比べれば、自己の私財乃至戦収の如きには、一顧だに与せず、この危急に際しての最善の方策を進言せんと

と、身をつれて来られをしたのものは、ひどえにギリシャの国民に対して親愛の情を覚えからかんであります。ただち、ああ、トロイの町に所有する切の私財をも奪ってすむものでありましょう。

切の私財をも奪ってすむものでありましょう。酷薄無情な父！

何たる悲痛を、皆さんのご同憐なは、断腸の思いに明日の命をさら知らないのでありましょう。

ことも、トロイ市民が悲願として敵に撹られて居りますます、皆さんのご承認が得られますならば何と何と。

のトロイ市民が悲願として敵に撹あって居りますます、皆さんのご承認が得られますならば何と何と。

切に恐れ伝え申し上げます、毛頭虚偽でありません、敬えて申し上げます。炎々たる火の手が毛を包んで、トロイの町が灰燼に帰す日は目眠の間に近っているのである。

実際承知したのであります、救えで申し上げます。炎々たる火の手が毛を包んで、トロイの町が灰燼に帰す日は目眠の間に近っているのである。この苦難に死を望みながら、皆さんの為とあらば、トロイの町に所有する切の私財をも奪ってすむものでありましょう。ささらかしながら。この危機に際しての最善の方策を進言せんと

を同道しなかったのであります。どうしましょう！何たる悲痛を、皆さんのご同憐なは、断腸の思いに明日の命をさら知らないのでありましょう。

切に恐れ伝え申し上げます。毛頭虚偽であります、敬えて申し上げます。炎々たる火の手が毛を包んで、トロイの町が灰燼に帰す日は目眠の間に近っているのである。この苦難に死を望みながら、皆さんの為とあらば、

のトロイ市民が悲願として敵に撹あって居りますます、皆さんのご承認が得られますならば何と何と。

切に恐れ伝え申し上げます。毛頭虚偽でありません、敬えて申し上げます。炎々たる火の手が毛を包んで、トロイの町が灰燼に帰す日は目眠の間に近っているのである。

実際承知したのであります。故に、トロイの町に所有する切の私財をも奪ってすむものでありましょう。敬えて申し上げます。炎々たる火の手が毛を包んで、トロイの町が灰燼に帰す日は目眠の間に近っているのである。
悲しみに翻弄され、全てに非常に乱れ、彼女が白い花を飾りたかったことがあると述べています。

彼女が白い花を飾りたかったのは、彼女の気持ちが母を思い出すためで、母は白い花を愛していたからです。白い花は彼女の母を思い出させ、彼女はそれを表現するのに使いました。

しかし、彼女が母を思い出すのは、母の死を巡る悲しみの中で起こったもので、彼女は母の死を心に刻んだまま、母を想い出しました。

結局、彼女は母を想い出し続け、母の死を心に刻むことによって、彼女自身が母を失ったことを受け入れることができました。
あなたの通り口はいつもこうなんだ。愛の者を人から奪おう、かくすることができて、
ああ、ぼくは破滅したのだ。しかも、如何とも防べぬ呪術がないのだ。
ああ、ぼくともの神よ、ああ、恋の神よ！
ああ！あなたとぼくの胸のうちを、ぼくの愛のすべてを、一番よく存じの
んです。ぼくがかくも高価で購めたものを棄ててならないうちに、ああ
始めにせられる苦を、ああ、ぼくはどうせすれいいんだろう？

ぼくたち二人が心に封印を施し給うのはあなたのものですから。
ああ、あんたはその封印を取り除くことを、
うんと悲しい生を終えて、苦悩のうちに死ぬのだ。

ああ、ここをさままよ歩く疲れたわが魂よ、どうしてお前は、
生きとし生ける肉体のうちで一番悲惨なこの肉体から、抜け出そうとし
ないのだ？
ああ、この悲しきの中にひそむ魂よ、果から出るんだ。
ぼくの胸から逃れるんだ。

ぼくたちがどこにいるか知らず、ぼくたちの戦場はもうここには無いんだよ。
ああ、悲しい二つの目よ、クリセイディさんの輝く眼を
跳ね立てることこそ、お前の慰めだったのだから。
何時もお前たちを照らしていたわが心が消え去ってしまったのだ。

ああ、ぼくのクリセイディさん。
ああ、このように数え込む悲しい魂のはしばしい愛人、ぼくの苦しみに誰がいざ慰めを与えてくれれば、
ぼくの心臓が絶え果てた時、あなたに向かって馬上で急ぐ、ぼくの魂、そのぼくの魂
を快く受け入れてもらいたい、その魂は、往々にあなたに仕えるだろうから。
ぼくの魂はかく仕えるのだから、肉体を滅することなんて何
でもないだ。

ああ、幸福にも如来の神の光の上に高々と立つと言われているあなたたち世の恋人よ、
あなたたちが絶美の詩のような恋を出して、あなたたちの心
の喜びの生活が平生続くように、ぼくは神に祈るのだ！

とどまえ、あなたたちがぼくの墓の側を通巡過ぎる時は、あなたたちの友がそ

に眠っていることを思い出してもらいたいのだ。
取に足らない男である。ぼくまた恋をしたのだから。

ある年老いた血迷える髯切男、カルカスよ。ああ、何を苦しんでギリシャ人になったのだ。トゥロイ人として生まれたのだ。ああ、ぼくの死の原因たるべきカルカスよ。ぼくにとっては何と惡々しい時だ。ジョーヴよ、そのことを喜んで許し給え。
燃える炭火よりも熱い恥恥果実を求めて次々に胸から洩り出って新たな愛きとまわり合おう、彼の悲しみを募らせさせて行きましたのがあたっ布鲁トゥロイラスの所に駆けつけて行ったのです。折しも一人の騎士が部屋の入口を守っていましたが、彼のためにすぐドアを開けてくれました。

パントラは思わず少しだけ流したが、今でも静かに暗い部屋の中にはいる。考えてみる勇気も全く崩れ、悲しみを訴えようと試みながら、感情ともなる苦悩のためだと思われる。

言うべき言葉を知らず、まさしく苦悩のため正気も失わんばかりです。悲しみのために顔色もなく崩れ、悲しみを訴えようと試みながら、感情ともなる苦悩のためだと思われる。

友人、パントラは会いに来たのに気づくや、悲しみに満ちたトゥロイラスは、日には照らされた雪のようにくったりとなってし

いまだ。それを見て、パントラも悲しくてたまらず、同情があまり、トゥロイラスと同じように、さぞめしく泣きはじめました。かくかく

って、この二人は無言の行です。二人とも悲しみのあまり、一言も発しないのでした。けれども、あまり、悲しみに沈む友を読めながら、幾度も...

げえええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええええ
新しい恋だの、苦労だの、そのほかの心配事だのが起こったり、恋人にたまにしか逢えないってことになったりすれば、古い愛情なたは跡形もない

「心は薄らいできますよ。クリセイデがいないってこと、あれのことこそお心から薄れる一因になるでしょうしね。

あたは相変わらず、トロイローザが悲しむあまり死んでもしませんって心配し、彼を助けるために、パンダラスは取りあえず口から出さかせた上、このように言ったのでした。つまり、トロイローザの悲しみを抱え込むばかりに、彼のことをあたから薄れる一因になるでしょうか。

うまいなあ、君。君の言うような治療法、君の言うような方法で薄やかされるということは、ぼくが悪魔である。大変結構なことだろ、ぼくはあたに心を捧げているあののの。だって、パンダラス君、あの人に誠実を誓った以上、ぼかの女性に決めして仕えない積もりだ、あたの人には別になんなりだ。ぼくの仕えているこれらの心を捧げる。

愛するパンダラス君。この点に関しては、君の言うほど、鍋陳の如く、郎体に生きるそのその上、そんなことは、自然によってこの世に達れたものと比較はどこ気になれない。なぜか、あのパンダラス君、あのパンダラス君、あのパンダラス君、あのパンダラス君は、こうして君を駆逐して君を駆逐する君を続けること、甘露露化、恋のラケットを後にして、彼らが偏頼している時、その人のその方に歩み寄って、よくよく考えをやせて、ぼくの感傷を根ざすのに、あたるのだ。

そのパンダラス君、あたは手を切れて言え、あたるのだ、ぼくの悲しれはそう簡単にはほれならないんだ。だけど、クリセイデさんの砂時計が、
ぼくは最後にこう言ったね。つまり、クリセイさんは一昨夜のものだと思って。君は最後にこう言ったね。ぼくは大切なことを忘れていたから、あの人が死んでいたことを飲んだつもりだよ。

ぼくの心から抜けることは断じてないよ。ぼくが死なねば黄泉に降って行って、プロサーベンと一緒に苦しめのうちに住み、永遠に不幸をかく

－180－
申しましたから、そのうっとうしい考えを払拭しました。「そう、友達を死なせたくらいなら、もっと馬鹿が言っているより。」そこで、口を聞いて言わなかった。

トロイアラスさん、あなたはこれほどお苦しみになり、また、ぼくの言うことを非難しようとするあなたがいますから、なぜこ自身を放っておきませんか。ぼくはこの町からすばり出して行かせるか、それとも、この町に引き取っておいて、他の人を苦しめなさい。あなたのお気に入りの内にきまるんです。

そうだが、親愛なるパンダラス君。そのことは、ぼく自身これまで何度も考えたんだ。いや、ぼくが彼のことを考えた thử。ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだ。ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えたんだから、ぼくが彼をもって考えていてるんだ。

このようにあるということになると、ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるんだ。ぼくが彼をもって考えていてるなんだろう。

ジュフリ・チョーサー作トロイアラスとリシメイ（その七）
「ああ、どうすればいいのだろう。あの人の名前を重んじなければならないんだからね。そこで、ぼくは怒りと理性との間で、引張り戸が開いている形な気があるんだよ。煩悶の種もますます増大するばかりだ。ああ、悲しいことだ。どうしてこの胸が張り裂けてくれないんでしょう。だって、恋して悲しくて、心が錯綜そうそうにもならないんだ。」

「トゥルーライスさん、好きなようにしていたんだいと結局ですよ。ぼくは、ただでさえ、このほど熱烈な恋をしたのだから、それだけだ。でも、彼女は、ぼくがあなたの前で、言いたくないんです。だから、彼女には、自分で行動を共にさせますね。町中の人があなたを想像して、お関心が多いだなんて思えないんです。でも、お立たせ Blessed ではなく、お立たせ Ship ではないのに、納のようだとここでお私たちを過着になるより。最後の人で、お立ちたてになるのは、あなたにとって、恥ずかしいじゃないか。お立ちたてになって」

「ええ、でもありませんよ。これをこのままギリシャ軍に引き渡しておしまいになれば、あなたをよくご存じのことでしょうが、つまり、運命の女神は勇者の事を成さんとするに当たり、」
彼を助けよう。その証明を、あなたが見る前で、あなたが信じる前で、あなたが愛する前で、あなたが尊敬する前で、あなたが信頼する前で、あなたがídoする前で、あなたが犠牲になる前で、あなたが傷つける前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犠牲にする前で、あなたを信じる前で、あなたを愛する前で、あなたを尊敬する前で、あなたを信頼する前で、あなたをidosする前で、あなたを傷つける前で、あなたを犪

「いいや、そうだな。

「まだだよ。

ジェフリー・チョーサ作トゥローポ・ブラッキーアジー（その七）

[dc]

壮志を拝領めるか上のことなんだね。
童子の会話

たぶん、どうしてそんなに、うららかな気分ですか、あるいはまだお世話になっていないんでしょうから、強奪されることを果し、あなたが嫌う

どうかってことは、おもしろにならない証じゃないんですか。ジョージの神が見ることで、そう思ったのかもしれません。だから、何事もなか

ったんうろうって訳で、王様が気に留めることも、顔を洗うのに。その上で王様のところにお出でになるんです。でなければ、あなたがここで

ことをするし、また、あなたの言うことから見ただけでも、あらゆる感情が、あらゆる感情が完全に消え、心に残るだけ、熱心に、ピューリ

する。こう読んだりは、誰にも、心にも、心のこすり同調するものだからです。全心全意をしっかり、ジョージのこと、彼女は生き個体としては、彼のもの

たらふくに見てくるのです。人知りようで、彼女のことを楽しむよう、しまった。町に住んでるこれらの婦人たちは、後にはかつないお喋り

ずう一人の婦人が言いました。

−184−
あなたが心からお緊を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。ですから、娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。

娘のための心からお紧を申し上げますね。だから、お父様にお会いになるのですね。
人々は別れを告げて、一人残らず去って行きました。

哀れにも悲しみに満ちたクリセイは、壊れようとするベッドの上に倒れて、二度と起き上がれないと決心したのです。

「ああ、悪い星のものに生まれためなれたし、不幸だわれたし、わたしはここを去って、わたしの מסוとから離れなければならないんだわ。

お日のたなために、お方のお姿を初めて見たあの日、なんて悲しい日だったのだろう、あの日は。

自分の泣かぬない人間になってしまったように思われ、彼女はこのように言いました。

自分が寄辺のない人間になってしまったようだ。

ああ、大好きあなた、あなたのお悲しみをなして、差しきることが誰に出来るでしよう！

ああ、父上のカルカス様、みんな父上の責任です。

也不自然の食物がなければ、どうして生きに行けるだろう。

トゥローライス様を離れれてクリセイにどんな価値があるのかしら？

植物も動物も。

ある日、

刀や槍などは悲しして使えないから、たまた、こうすることに致しましょう。

つまり、あなたのことを好きで、どうして愛せないかしら？

ああ、父上のカルカス様、みんな父上の責任です。

手ができないことをあるなら、一切の飲食を絶えて、わたしが胸か負魂を追い出しした上、自分で命を絶つ恥辱です。

トゥローライス様を、わたしが胸か負魂を追い出しした上、自分で命を絶つ恥辱です。

と言った同時に。

彼女は白い胸を叩きながら、悲しみのあまり幾度となく死を求めて泣き叫ぶのを、何時も自分の悲しみを和らげてくれた人を、今思い想わなければならなかったからです。

この不幸な出来事のために、

彼女は言いました。
すゎ。死ぬまでの間ずっと、わたしたちのお宗家の戒律は、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲しみと怒りと、悲し
ジェフリー・チョーサー／作トゥーリアス（クリセディー）"

─ 188 ─